

東伸への
「OKBポジティブインパクトファイナンス」の実行



大垣共立銀行（頭取 林 敬治）は本日、株式会社東伸（代表取締役社長 藤吉 英紀）へ「OKBポジティブインパクトファイナンス（以下「PIF」）」を下記の通り実行しました。

PIFは、お客さまの事業活動が経済・社会・環境に与える影響を分析・評価し、特定されたポジティブなインパクト（プラスの影響）の向上とネガティブなインパクト（マイナスの影響）の緩和・低減に向けた、お客さまの取り組みをサポートする融資商品です。

OKB大垣共立銀行はこれからも、社会や環境課題の解決に資する取り組みを一層推進し、地域循環型社会の担い手として、持続可能な地域づくりに貢献してまいります。

記

■本件融資の概要

企 業 名	株式会社東伸
融 資 実 行 日	2025年3月31日（月）
融 資 金 額	100百万円
資 金 使 途	運転資金
そ の 他	・ 評価書 https://www.okb.co.jp/assets/pdf/archive/2025/toshin20250331.pdf ・ 株式会社格付投資情報センター（R&I）によるセカンドオピニオン https://www.r-i.co.jp/rating/esg/sustainabilityfinance/index.html

■株式会社東伸の概要

代 表 者	代表取締役社長 藤吉 英紀
所 在 地	岐阜県大垣市野口3丁目1-2
業 種	スリッター・リワインダー製造

<企業のコメント>

当社は、既存の技術・ノウハウを活かし、EV向け製品など新分野への進出を図っています。リチウムイオン電池用加工機の受注対応に向け、本社敷地内に既存工場と同規模の新工場を完成させました。

環境への配慮も考え、主力製品に使う鉄の量を減らすなど大幅なリニューアルも実施し、新分野の売上を現在の20%程度から2030年5月期までに44%程度まで向上させることを目指します。今後は、電池材料製造用機械の売上比率向上と新分野向け製品開発を進め、自社製品を通じ脱炭素社会に貢献します。

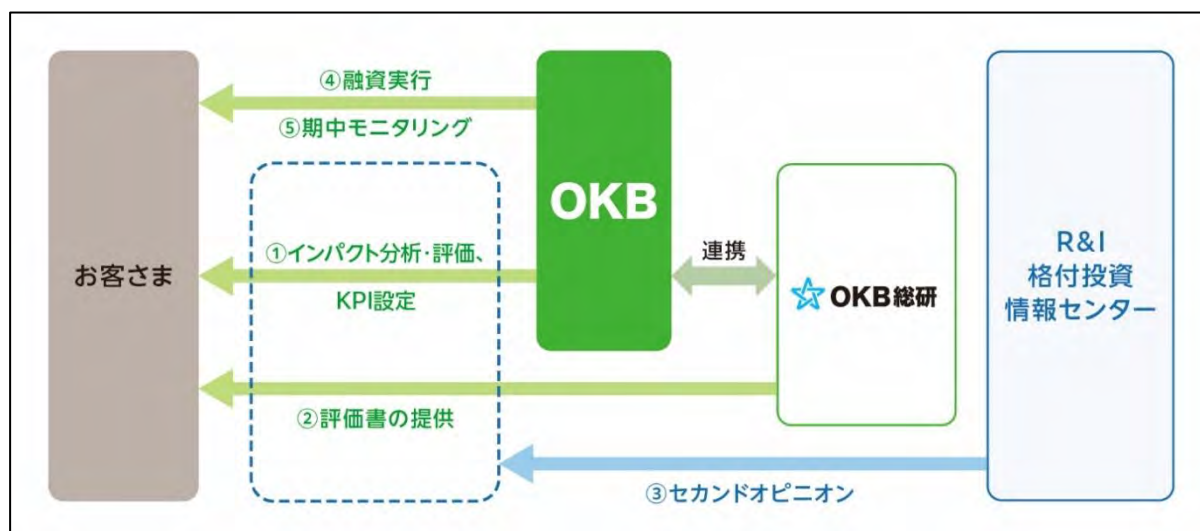
■OKBポジティブインパクトファイナンスの商品概要

お客さまの事業活動が経済・社会・環境に与える影響を分析・評価し、特定されたポジティブなインパクト（プラスの影響）の向上とネガティブなインパクト（マイナスの影響）の緩和・低減に向けた、お客さまの取り組みをサポートする融資商品

ご利用いただける方	法人のお客さま
資金使途	運転資金・設備資金
融資金額	50百万円以上
融資形式	証書貸付
融資金利	OKB大垣共立銀行所定の変動金利または固定金利
手数料	OKB大垣共立銀行所定の手数料

・本商品のご利用にあたっては、OKB大垣共立銀行所定の審査があります

【スキーム】



- ① OKB大垣共立銀行とグループ会社の株式会社OKB総研が、お客さまの事業活動が経済・社会・環境に与える影響（インパクト）を分析・評価し、インパクト結果に基づくKPI（指標）を設定します
- ② OKB総研がインパクト分析・評価結果を「評価書」として提供します
- ③ 評価内容について、国際原則への適合性を確認するため、株式会社格付投資情報センター（以下「R&I」）からセカンドオピニオンを取得していただきます（費用はお客さまのご負担となります）
- ④⑤融資を実行し、設定したKPIについて、OKB大垣共立銀行が定期的にモニタリングを実施します

本スキームは、R&Iから、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEPFI）が策定したポジティブ・インパクト金融原則に適合していることについてセカンドオピニオンを取得しています

【OKBの適合性に関するオピニオン】

https://www.r-i.co.jp/news_release_suf/2023/01/news_release_suf_20230119_jpn.pdf